

読売新聞 きょう（9月5日）のイチ押し

1面 総裁選 週明け本格化

17日告示、29日投開票の自民党総裁選は、菅首相の不出馬表明で構図が一変しています。すでに立候補を表明している岸田文雄・前政調会長や、出馬の意向を固めた河野太郎行政・規制改革相のほか、4日には高市早苗・前総務相が安倍前首相の支援を取り付けて出馬できる環境が整いました。石破茂・元幹事長も意欲を見せていて、混戦模様です。週明けから動きが本格化することになります。

- ★ 総裁選では党員票の行方に注目が集まっています。国会議員票と同数の383票あり、投票資格のある党員・党友の票に応じて比例配分されます。一般有権者に感覚が近く、「選挙の顔」にふさわしいかどうかを測る目安にもなるだけに、勝負の行方を大きく左右します。

1面・社会面 緊急事態延長へ

新型コロナウイルス対策として21都道府県に発令中の緊急事態宣言について、政府は首都圏4都県などで12日までの期限を延長する方向で調整に入りました。医療提供体制に改善が見られる地域は解除する方針ですが、一部にとどまる見通しです。延長幅は2～3週間程度とする案が出ています。

政府の2日時点でのまとめでは、緊急事態宣言が発令中の21都道府県の大半で新規感染者の増加ペースは鈍っていますが、首都圏、大阪府、愛知県などで高止まりの状況にあります。病床の使用率は19都府県で最も深刻な「ステージ4」のままです。政府高官は「12日に全面解除することはできないだろう」と話しています。

他紙と比べて

「突然訪れる」と言われる介護について、基本知識や役立つ情報を紹介する「介護のいろは」がくらし面に載っています。毎月第1日曜掲載です。今回のテーマは「においが気になったら」。家庭での介護ではにおいが気になることもありますが、介護を受ける人が傷つかないかたちで対処する方法についてまとめています。